由布市 総括会議

ハピカム ミライデザイン会議

大分合同新聞社が、次代を担う若手リーダーと一緒に地域の未来を考えるミライデザイン会議「ハピカム」第16弾由布市編が9月12日、市湯布院コミュニティセンターなどで行われた。「1次産業」「観光」「地域力」の3分科会での話し合いを経て開かれた総括会議では、各分科会で出されたミライキーワードを基に由布市の未来について議論をさらに深めた。同市は挟間、庄内、湯布院の3町が合併して10年。市は「由布を一つに」を掲げて3町の融合を図っているが、分科会ではキーワードの一つとして「ひとつでも3つでもない」が挙げられ、一つになるとはどういうことか、一つになる必要があるのかを始点に議論した。その中では、3町それぞれに光輝く魅力があり、無理に一つにせず、個性を生かした上で互いがつながっていこうと指摘された。そのために小さなところから会話することで生まれていく、地域間、3町間の相互理解と相互認識が大切だと一致した。参加者はこの日の出会いをきっかけとして新しい輪を生み、新しい由布市を創造していくことを誓い合った。

■ウェブ　http://www.oita-press.co.jp
■スマートフォン　http://www.oita-press.co.jp/h-come/

主催／大分合同新聞社　共催／由布市　由布市商工会
協賛／国立大学法人 大分大学　㈱大分銀行　日本たばこ産業㈱大分支店　㈱菊家

無理につながずとも時は来る

「1次産業」分科会まとめ

まず、課題となっている新規就農について議論した。いろんな制度があってもうまく機能していない現状があり、生産者側にも地元に溶け込む姿勢が必要なのではと指摘された。また、農業者がもうかる姿を見せることが大切だという意見も出た。キーワードは「原点壊帰（かいき）」で、回ではなく壊すという字を使った。観光と農業の連携の議論をする中で、今はお互いを思いやれる状況になっていないのではと指摘された。農業は景観という観光にとって重要な役割を担っているが、両者が有機的に結び付いたウィン－ウィンの関係になっていない。一度これを壊して、原点に戻って新しい由布市の形をつくっていったらという思いを込めてこのキーワードになった。

"ミライキーワード"
原点壊帰

「観光」分科会まとめ

キーワードは「知る」。全国的に有名な湯布院がある由布市の観光客数は現在、年間約400万人となっている。この数字を引き継いでいく次の世代が、何を守っていくのか、そして変えていくのかについてまず議論した。守りたいものは「石畳」「人」「自然環境、自然景観」「村の感覚」で、変えていくものとして「意識」「ライフスタイル」「3町の友合（ゆうごう）」「おもてなしの充実」が挙がり、それぞれの言葉に込められた思いを話し合うことで議論を深めた。そして観光の次の一手となるのは庄内、挟間と連携した周遊観光ではないかという意見が出され、そのためには互いを認め、互いの友合が必要。まずは互いを知ることから始めようということがこのキーワードが導き出された。

"ミライキーワード"
知る

「地域力」分科会まとめ

キーワードは「ひとつでも3つでもない」。ひとつというのは由布市のことを指し、3つは挟間、庄内、湯布院の3町のことを指す。分科会メンバーには町づくりや農業、伝統芸能に携わっている人がいて、これまでどういう思いでやってきたかを話す中で、ピンチを迎えた時に発奮して逆にチャンスにつながってきたという歴史が紹介された。また、それぞれが自分の地域をよくしたいとか、好きなところを大切にしたいという思いから活動している。三つの地域を無理に一つにしようとしても難しい。それぞれの活動をもっと磨き上げ認め合えれば、点と点がつながって何かが生まれるのではないかいろんなものがあっていいのではないかという結論になった。

"ミライキーワード"
ひとつでも3つでもない

とから始めないとということだったと思います。

一回わだかまりを壊す

首藤　1次産業は壊すという字を使って「原点壊帰」になっていますが、事前に会ったときは何人かの方は原点回帰が必要だと言っていました。具体的にキーワードに込めた意味を教えてください。

高田　先ほどから知るという話が出ていますが、方向性が違う人間が話し合っても知ることは難しいと思うんですね。もっと本質の話をするとみんながまとまっていく。本質の話が何かというと、何のみんなでもうかる方法か見つかれば、同じ方向を向いて意見が出てくるのではないかと。農業と観光は密につながっていて、由布院の観光では「豊かな田園風景と豊かな自然」と言っますが、それは1次産業が守っているものの。では観光から農業に支援があるかというと、なかなかない。現状を壊して、私たちの世代で新しいことをやっていこうということで「原点壊帰」としました。農家は毎年、種を植え収穫したから、また新しいことをやっていくんですよ。新しく種を植えるという意味で、分野に関係なく新しく方向性を一つにまとめていく方が楽しいと思います。

首藤　万さん、がっぱりもうかる方法のアドバイスを。

万　がっぱりもうかる方法は知らないんですが、お話をしていて感じたのは、みなさんはすごいなと思っていましたが、自分たちでよくしたいという言葉しか出ないんですよ。その人たちが同じ方向を向いたらすごいかになりますが、それをつくるには、一回今あるわだかまりを壊して、新しい由布にするのがでっとり早いということからこのキーワードになりました。言葉は汚いかもしれませんが、ぶっつぶして新しく創造するというのが大事だと思うし、それをみんなで考える場が必要だと思いました。

1次産業／アドバイザー
Hirofumi Yorozu
万洋史 さん
福岡県出身。大分市在住。43歳。イオン九州光吉西農業主任。久留米大学を卒業後、マイカル九州入社。イオン九州で農産主任や関係本部などで勤務。

地域力／若手リーダー
Takahiro Otani
大谷隆広 さん
湯布院町在住。46歳。ゆふいんまつり実行委員会の実行委員長として、ゆふいん温泉まつり、ゆふいん盆踊まつり、湯布院映画祭などを実施。

何をどうしたら一つか

首藤　いまわだかまりを感じているんですか。

大谷　あまりないんですけど、そんなにありますか？　一つと決めているのは、ふん、行政が決めているだけで、僕たちが一つと決めてるわけじゃない。だから、三つに分かれているからいろんな血が入ってきて初めて、いろんなことができると思うんです。案外分かれているという意識はなくて、その中で、高田君が言うように、観光とまだつながっていないというのがあるのかもしれないですけど、それは今つながっていないだけで、いろんな努力でいつかつながるような気もするし、一つになるということ自体がよく分からない。何をどうしたら一つなんですかって本当に疑問です。

太田　自分が病気しているから、お金でペクトルがそろうと思っていないんです。お金を払うと従業員が長く続くからいうと、そうではなくて、生きるという部分、この地域で生きようと、生きたいということはペクトルはそろっていると思うんです。地域がより続けるためのツールとしてお金はある。じゃあ、もうかるんだったら給料が高い都会に行けばいいじゃんとなるけど、そうじゃなくてこの地域に住む理由は、はたしてお金なのかなと思います。僕自身農業もやってるんですが、農業自体が一つのベクトルを向いていない現状があると思うんですよ。観光はお客さんに来てもらわないといけないので、その部分で割合ベクトルがそろうように見えるけど、どういうお客さんをターゲットにするかはバラバラ。そのバラバラになっている背景にはお金があるんですよ。いくらもうけたら成功なのかに答えはないので、どうやって何をするかの方がベクトルを合わせやすいと思います。

首藤　地元記者としてはいかがですか。

指原（祐輔・大分合同新聞由布支局長）　これまで職種や地域を越えて話し合う場があったかなと思って。自分はいろんな地域に行って、いろんな人から、ぶっちゃけ話も聞けたし、率直な意見を言い合える場が必要だなと思いました。

太田　本当にそう思うんですよ。今まで高田さんと顔は合わせていたけど、初めて議論を交わしました。場がないっていうのは、その通りです。

首藤　なんで場がないんですか。

太田　ステージをつくるのは行政の役割なのでは、ステージをつくった上で、議論を戦わせるのは住民でいいんですよ。じゃないと盛がプラットな立場で人を集めるんだ、っていう話になるじゃないですか。人が集めるからという議論が足りてないんじゃないですかね。

首藤　それは行政の役割ですかね。湯布院は民間の方で町づくりをしてきた歴史がありますが。

大谷　もちろん行政もそうでしょう。お祭りでも地域で集まるとかが大事だろうと思うし、議論になったりする場は大事だと思います。あと、自分から飛びこまないといけないこともあると思うんです。いろんなことに、農業と観光がつながっていくというのが、ちょっと思うんです。いろんなことに、農業と観光の間の自然の中でできたお宝がいっぱいあって、それが湯布院全体、市全体でも同じで、お宝を知らないから、次の一歩が生まれてこない。われわれは自分たちの縄ばりこと作業は続けていますが、隣の地区のことはあまり知らなかったり。人間の根本にあるのはお互いを理解したり、知り合ったりすることで、それがあってようやく新しいことができたり、新しい議論が生まれるという意味を込めてこのキーワードにしました。

首藤　アドバイザーはいかがですか。

河野　分科会の話では、人同士がまず知ることが一番大切だと分かりました。私は大分市の人間ですが、湯布院は横同士が連携して繁栄してきたイメージがあったんですが、実はその中でもいろいろあって、さらに3町が合併して、まず人を知ることが一番大切だと分かりました。私は大分市の人間ですが、湯布院は横同士が連携して繁栄してきたイメージがあったんですが、実はその中でもいろいろあって、さらに3町が合併して、まず人を知ることが一番大切だと分かりました。

首藤　1次産業と観光を切り離して考えることはできないし、観光と地域力も同じなんですが、キーワードを「知る」としたのは、お互いが知らないから嫌悪感を抗議（ふっとん）できないし、わだかまりをなくせないのが現状であるから。分科会メンバーの由布院温泉と塚原温泉と湯平温泉の中でも、お互いが理解し合えていないものがいっぱいあって、それが湯布院全体、市全体でも同じで、お互いを知らないから、次の一歩が生まれてこない。われわれは自分たちの縄ばりこと作業は続けていますが、隣の地区のことはあまり知らなかったり。人間の根本にあるのはお互いを理解したり、知り合ったりすることで、それがあってようやく新しいことができたり、新しい議論が生まれるという意味を込めてこのキーワードにしました。

首藤　アドバイザーはいかがですか。

河野　分科会の話では、人同士がまず知ることが一番大切だと分かりました。私は大分市の人間ですが、湯布院は横同士が連携して繁栄してきたイメージがあったんですが、実はその中でもいろいろあって、さらに3町が合併して、まず人を知ることが一番大切だと分かりました。

首藤　いまの議論を聞いて川田先生はどう感じましたか。

川田　議論の場をどこでつくっていくかについてですが、行政がきっちりというのは湯布院の歴史を考えると逆なのかなと思いました。まず芽が出たところに行政が支援していく歴史だと理解しています。芽が出るまではエネルギッシュな集団であって、芽が出ないと行政も支援しにくい仕組みになっていると思うんですね。今一番地域の問題になっているのは行政自体がかなとなので、民間レベルではすでにつながりが生まれていると思います。

太田　行政と言ったのは由布市になったときの話で、地域ごとにはいろんなつながりがあるんです。合併して10年で、お祖母ちゃんが「盛がよく」という言葉がよく出るけど、盛和なんかしてないわけですよ。観光意識があったり、世代間ギャップが生まれたり、これから先の次補はいっぱいあると思うんです。これを突破していくことを盛かやるか、もちろん民間がやるんですよ。だけど行政は何もしないのという思いもあって言わせてもらいました。

融和に無理やり感あるな

首藤　由布市の観光ポスターも3町のバランスに配慮してこちゃこちゃなっていて、そんな姿ではないんじゃないかという意見もありましたが。

大谷　融和が悪いとは言ってません（笑）。何か無理やり感があるのが嫌だなと。湯平の石畳でも由布市だと伝わるようになんなんと、結局はよく分かんないじゃないですか。由布市って何なのって気になっていて、地域にある祭りなどは守っていきたいんですよ。由布市って一つ閉ざりできれば他のことはいいなっていうのは、違うと思っているんで。地域の輝くものは残していかないといけないですよ。「一つに」という言葉でまとめると、とりかかんなくなっちゃうんじゃないですかね。

首藤　湯布院の町づくりは全国のトップランナーですが、現状をどう思ってます。

大谷　民間レベルで頑張るからこそ行政が応援してくれるんです。本庁舎方式になったら、本当に輝くものがあるのにどうやって手当していくのか疑問がありますね。やはり地域のことは民間と行政が一緒にやるべきだと思います。

首藤　観光の現状をどう見ていますか。塚原の渡辺さん（理・観光分科会）、いかがですか。

渡辺　もともと農村で観光地ではない場所が、移り住んで来た人たちがお店を開いたりして、十数年前から観光地としてやっと認めてもらえる場所になってきました。塚原は観光を商人だけがやっているものと考えてなくて、地域の酪農や農業と手を携えてやっていきたいと思ってますし、先ほどヴィッテンとしていえばもっと盛ましたが、それを築きあげていきたい。湯布院というブランドを最大限使わせてもらっているし、庄内、挟間のこともちゃと知る必要があると思っています。

太田　湯布院の観光がこのままあり続けるとは思っていないです。もしかして変化が生まれるかもしれない。自分たちがやり始めた時はバブルの後で、田舎町がフィーチャーされてなかったけど、スローライフが注目されるなどなんだん時代が合ってきてニーズが生まれてきた。分科会では、ふ地獄や火山で湯布院が駄目になったとき、由布川観光や見晴台などが復活するための素材になるのでは、という話になりました。周遊観光をどう進めていくかが湯布院の未来に関わることだと思います。

大谷　その通りだと思います。いいものはいっぱいあるんです。後はつなぎ方ややる覚悟、未来に向けてのデザイン。その辺を共有できたり、盛かリーダーがいて引っ張っていったりすれば面白いことができると思います。別に湯布院にこだわっているわけじゃないんですよ。みんながよくなるのが一番いいと思ってます。少なからず僕たちはやってきたし、それが認められる地域であってほしい。それがあればみんな頑張れるんじゃないかと思ってます。

もうかる姿みせたい

首藤　分科会でピンチを逆にチャンスに変えてきた、今はピンチがないことがピンチなのではと言ってましたが、詳しく説明してください。

大谷　僕はいつも100年間続く町づくりをしたいと思ってるんです。そのためには子どもたちの世代にも引き渡さないといけない、自分たちで立ち上げる経験をしていない人が多くなって、例えば牛乳（くい）絶叫大会を例でやっているんだろうとか、今のままでいいのとか、疑問もいままやっている気がする。そのままだと次の世代に伝わっていくのが危惧されるということです。本当のピンチにならないと立ち上がらないのかもしれないですね。ピンチになったとき、どれだけ立ち上がっていけるかが勝負になると思います。

観光／若手リーダー
Shintaro Ota
太田慎太郎 さん
湯布院町在住。35歳。由布院温泉観光協会常務理事。原鶴松桜代表。大学卒業後、カテル不修業。25歳で原鶴松桜を起業。NPO法人ユクリエ理事長。

1次産業／若手リーダー
Tatsuya Takada
高田龍也 さん
湯布院町在住。37歳。農業の夕カ代表。由布市ワイワイ農業会議会長。建設業から2007年に農業のタカダを設立。TPP参入が気になっている。

野趣あふれる"果実の房"に

芽が出れば行政が支援

総括アドバイザー
Nahoko Kawata
川田菜穂子 さん
京都府出身。大分市在住。37歳。大分大学教育福祉科学部准教授。専門は民家、地域の特性を生かした居住環境・コミュニティー再編の研究に取り組む。

どう声を挙げ動くのか

総括コーディネーター
Ko Shuto
首藤康 1993年入社。44歳。別府支社編集部、運動部、社会部、東京支社編集部員などを経て編集局編集委員。ほた由布市に、呼ん力はます。一緒に飲みましょう！

首藤　挟間で生まれ育ち、現在は湯布院で観光行政に携わる梅野さん（朝美・観光分科会）はどう思いますか。

梅野　特に庄内で若い人の顔をあまり見ないんです。子どもの声もあまり聞いたことがないんで、どこにいるんだろうと話していました。牛乳絶叫大会に行くと100人以上若いスタッフがいますよね。庄内ではそういう場が逆説的にないのかなと思うんですね。挟間は団地ができて、私の子どもの頃よりも集団登校の人数が増えているんですが、庄内の活力を感じる場がないなと感じます。行政も頭を悩ますところがないと思います？

首藤　わくわく農業会議には庄内の方もいると思いますが。

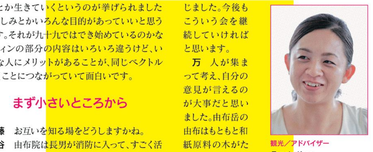
高田　なぜ若い人が庄内で働いてないかというと、農地が多いから、地元のじいちゃん、ばあちゃんにノウハウや経験を聞かずにいるのはもったいない。経験を積んだ財産がいっぱいあるんです。それを使ってもらから受を見せれば、若い人が地元に住むことを選択するんじゃないでしょうか。

結び付きがブランドに

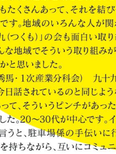
首藤　川田先生、会議の感想をお願いします。

川田　キーワードの通りで、「ひとつでも3つでもない」を未来像として掲げるのはとてもいいことだと思いました。市は融和を考えているようですが、それは同一的な町にそろえることではなくて、おたいの地域の個性を認めて知ることが融和だと思います。それをどう結び付けていくかは、小さなところからの対話、飲んで会話することから生まれていくんだなと。地域やお互いをよく知り、未来のことを考えた時に初めてピンチが出てくるんだと思うんですね。ピンチをみんなで見つけ出し共有して、いろんな人を呼び込み、アイデアを膨らまして、ということが町の力になってきたし、由布はそうやって豊かになってきたと思うんです。今日みなさんが出会って、これからどんな輪になっていくか、発展していくかがすごく楽しみです。

首藤　最初はどんな議論になるかと思っていましたが、建設的な意見を聞いてうれしく思っています。みなさんの話を聞いてブドウが頭に浮かびました。個性ある3町の地域という"実"がくっつき合って一つの自治体という形になっているような、ハウス栽培の房一つ実ではなく、野性味あふれる露地ものとうなブドウを目指すべきなのではと思っています。大い実がみれば顔揃い実がある。甘い実や悪い実もある。それが集まって大きな房になるような由づくりを目指していってほしいし、ふそういのブドウを由布市ブランドのラッピングをした商品として売り出すのが行政の役割だと思います。3町の個性はそれぞれ。挟間が「住」、庄内が「食」、湯布院が「衣」と言え、これほど衣食住の環境が整っている市町村はあまりない。地域間交流をより進めれば、1+1+1が4になったり5になったりするんじゃないかと思います。それぞれがそれぞれを補って認め合える、地域、町、そして由布市になることを開待します。今日はありがとうございました。



地域力／アドバイザー
Tomoka Kono
河野友佳 さん
大分市出身。32歳。JTB九州大分支店。大分大学工学部を卒業後、JTB九州に入社。店頭営業を務める。人の流れ、生活環境の変化が気になる。



地域力／アドバイザー
Shiori Mehara
目原瞬 さん
大分市在住。27歳。大分ベンチャーキャピタルサプライヤー。明治大学を卒業後、大分銀行に入行。15年から大分ベンチャーキャピタルに出向。

これまでのハピカム開催地／平成23年度 宇佐市（10月）津久見市（3月）　平成24年度 九重町（6月）日出町（9月）国東市（12月）臼杵市（3月）　平成25年度 竹田市（6月）日田市（9月）中津市（11月）東京（1月）姫島村（3月）　平成26年度 杵築市（6月）別府市（9月）佐伯市（12月）玖珠町（3月）　平成27年度 豊後大野市（5月）由布市（9月）

平成28年4月開設決定!! 大分大学福祉健康科学部

理学療法コース 定員30名
社会福祉実践コース 定員35名
心理学コース 定員35名

地域社会における人々の生活を幅広く支援するためのマネジメント能力を持ち、それぞれの専門分野でリーダーシップを発揮できる人材を養成します！

理学療法士　福祉専門職　心理専門職

※理学療法士養成指定学校申請中

福祉健康科学部での学び

福祉健康科学部では4年間を通じて、医療・福祉・心理の3分野が融合した科目や自分の専門分野ではない科目の履修を可能にすることで、本学部が目指す領域横断型のマネジメント能力を身につけた人材を養成していきます。そのために、各年次ごとにテーマを設定し、体系的に授業科目を配置しています。

援助の実践 4年次 ☆医療・福祉・心理の各領域の役割と機能を学ぶ ☆包括的な生活支援の方法を学ぶ　ライフサポート論 チュートリアルⅣ 等
マネジメント 3年次 ☆支援をマネジメントできる能力を育む ☆リーダーシップをとれる能力を育む　地域マネジメント論 チュートリアルⅡ・Ⅲ 等
仕組みと制度 2年次 ☆地域包括ケアの基本的視点を学ぶ ☆生活課題を解決する社会資源を知る　地域包括ケア概論 チュートリアルⅠ 等
基礎概念 1年次 ☆福祉健康科学の基礎を学ぶ ☆地域社会の今と生活課題を知る　アーリーエクスポージャー（早期体験実習） 福祉健康科学概論 等

PICK UP! チュートリアルとは？
少人数のグループに分かれて、課題に対して自ら問題点を見出し、自己学習と討論を重ねて解決していく授業です。実際の事例・症例を取り扱って医学部医学科・看護学科の学生を含めた模擬的なケースカンファレンスを行うことで、現場での実践力を養います。

人を結び未来へつなぐ
国立大学法人 大分大学 OITA UNIVERSITY

BUNDAI □旦野原キャンパス／教育福祉科学部・経済学部・工学部 〒870-1192 大分市大字旦野原700番地 □挟間キャンパス／医学部 〒879-5593 由布市挟間町医大ヶ丘1丁目1番地 □王子キャンパス／附属幼稚園・附属小学校・附属中学校・附属特別支援学校 〒870-0819 大分市王子新町1番1号 www.oita-u.ac.jp

おかげさまで60周年。5年に一度の工場開放！
菊家創業60周年記念
「菊菓祭」
10月25日（日） 菊家本社工場にて開催！
由布市挟間町赤野740

【当日のイベント予定】
★お菓子づくり体験コーナー
★工場見学（ロールボンディア、ぷりんどらなど製造ライン見学）
★作りたてのお菓子販売
★みんなで作ろう おかりの家づくり
★ぼくのわたしの ゆめケーキ
★食事処、甘味処など
★源流はさま子供太鼓、琉球エイサー太鼓、ダンスなど

「おしごと館」
洋菓子工場が見学できます♪
楽しい催しが皆さまをお待ちしております！

看板あり ここです
由布市挟間町赤野
大分大学医学部 ローソン イオン挟間 至 大分市街 ←至 湯布院 挟間郵便局 GS セブンイレブン 至 稙田→ 久大本線 向之原駅

ほほえみは心の花 菊家
◆お申し込み・お問い合わせフリーダイヤル 0120-390143 ワンキューオイシサ
http://www.kikuya-oita.net

「こんな甘い芋があったのか！」
新感覚 焼き芋スイーツ！
ゆふいん創作菓子
蜜衛門
10個入¥1,400（税込¥1,512）　5個入¥700（税込¥756）　1個¥140（税込¥152）
菊家全店にて好評発売中！
※菊家各店の他、ドキハ各店・大分駅銘品蔵・大分空港売店でも発売中！
●表示価格には消費税を含む金額を表記しております。
●商品の内容や価格が一部変更になる場合がございます。
●万一品切れの際にはご容赦ください。